佐那河内の風土に寄り添い、みんなで地域文化を育む

多世代を優しく受け入れみんなで地域文化を育む場所をつくり、佐那河内村で古くから営まれてきた豊かな山と川を尊重する暮らしを継承します。

国道からの視認性を重要視し、全ての建物と広場が見える配置とし様々な活動が見える計画。
カフェと下屋から連続する回廊の屋根で多くの人を出迎えます。

01 多世代が集い、交流する村の文化拠点

多様な人の交流が地域の文化を育み、佐那河内の風土を未来へと継承する施設を計画します。大きなイベントから一人で過ごす時間まで、誰もが思い思いに過ごすことができる多様な活動の受け皿をつくります。その活動の場が程よい距離感をもって繋がっていくことで、交流を促し新たな出会いを生み出します。

02 いつでも誰でも気軽に立ち寄れる「みんなの縁側」

佐那河内の民家に見られる下屋のように、村の「みんなの縁側」をつくります。下屋空間の様に分け隔てなく繋がる場づくりを新たな施設内のみならず、計画段階でも行います。計画に対してオープンな話し合いができる場をつくり、村ならではの施設をつくるプロセスを通じて、皆で考える機運を醸成します。そして、お年寄りから小さな赤ちゃんまで皆が使いやすく、いつでも行ってみたいと思えるような施設をつくり、多世代交流を育み地域文化を継承します。

03 誰もが気軽に利用できる計画

道路側からは、大らかな長い庇が視認性を高め、人々を迎え入れるための広い軒下空間があります。その傍にはカフェスタンドや広場が並び、奥の建物内に入ると左右に広場と各諸室が広がりを見せ、自然と交流が生まれるような配置計画です。また、ロビーには２階へ上がりやすい階段を設け、吹抜けを通じて１階と２階がつながることで、誰もが気軽に散策しやすく利用しやすい空間とします。

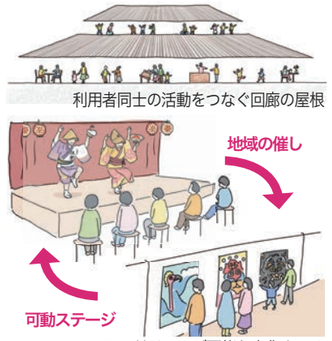
多様な活動が結ばれ、つながりあっていく

フレキシブルに切り替えできる直販ブース

周辺景観との一体性

04 多様な活動の芽を育てる受け皿をつくります

エントランスから、ホール棟と交流棟が分かりやすく自然と目に入り、初めての来訪者も迷わずアクセスできる構成とします。敷地中央の広場は、地域の祭りやイベントなどさまざまな活動をゆったりと包み込む空間が広がります。また、どこにいても周囲の山々を望むことができ、環境と一体となった心地よい交流センターを目指します。
また、可動式ステージや間仕切りを設けることで、佐那河内村のイベントや、サークル活動にも柔軟に対応できる多目的な空間としています。屋根は村に見られる民家の形に馴染ませた、落ち着いた風合いで仕上げ、周囲の景観ともやさしく調和します。



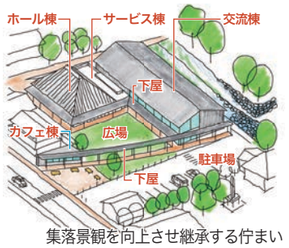
モードチェンジ可能な文化ホール

文化ホールより芝生広場を見る。観客席を収納し、完全平場として使用可能。

配置計画

05 佐那河内の自然豊かな集落景観を継承する風景をつくる

- 建物は佐那河内の民家にあるような母屋と付属屋のように分割し高さを抑えた形状とします。
- 高さが求められるホールは集落の茅葺き民家を模した約10寸勾配の寄棟屋根とします。
- 建物周囲に民家と同様に下屋を巡らせることで、施設の活動が内外に滲み出す風景をつくります。
- 村産ヒノキ、スギや瓦、青石などの周辺景観とと調和する自然素材を建物や外構に用います。
- 道路から視認性が高く出迎える佇まいを作ります。



集落景観を向上させ継承する佇まい

06 地域と連携し暮らしを支える

- 山から川へ向かう傾斜に寄り添う配置とし、活動が施設内で完結することなく、地域の他施設と連携し相乗効果を生む計画とします。
- 周辺の道を連続して敷地内に取り込み、地域の生活と連続した活動を通じて、地域の暮らしを支える施設をつくります。

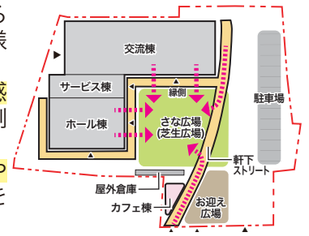
暮らしを支える多様な活動を創出する

07 誰もが安心して過ごせる配置

- イエローゾーンへの活動機能の配置を避け、道路からのアプローチとなる軒下によって安全エリアを明示し、防災意識を育みます。
- 歩行者と車両出入口を明確に分け、土砂災害警戒時にも利用可能なように搬入動線は西側から確保した安心安全な計画です。
- ホールなど各室から広場へアクセスしやすく一体利用が可能な配置とし、多様なイベント開催ができる計画です。

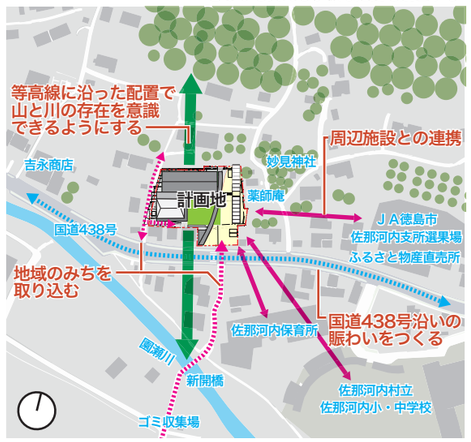
08 場所が連続しみんなで活動を育んでいくゾーニング

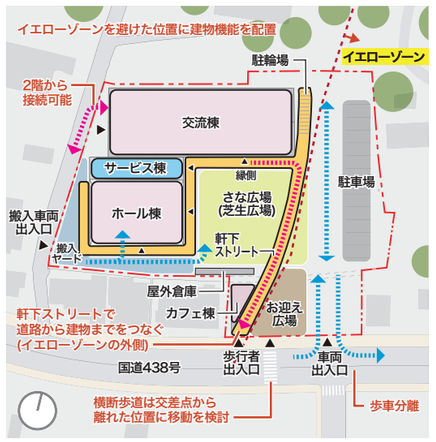
- 各室から視認性の高い中央に広場を配置することで、全ての建物からアクセス可能で、様々な活動が広がり繋がっていく計画です。
- 広場を囲むように下屋が巡り、気候風土を感じ、イッキャクを自由に使うことができる縁側から子供の遊び場も見守ることができます。
- 民家を模した屋根や下屋によって優しく緩やかに囲われた広場とし、周囲の石垣や自然をと一体となった賑わいの風景をつくります。



賑わいが滲み出す村のシンボル景観をつくる

交流センターの鳥瞰イメージ。周辺の民家や山並みにスケールを馴染ませ、歩車分離を図りながら人々を招き入れます。





佐那河内のひと・自然・文化をつなぐ「さな広場」

さな広場（芝生広場）から交流棟を見る。建物と下屋や軒下ストリートに優しく囲まれた広場で、様々な催しが行われます。

施設内外の活動状況が施設外からも感じられるような空間構成について

09 高い視認性で交流を促し賑わいが感じられる空間

回廊よりホール棟(左)と交流棟(右)を見る

敷地中央の「さな広場」（芝生広場）は下屋を通じて屋内と繋がり、屋内外の一体的なイベント利用なども可能で多様な活動・交流を育みます。

施設の内外に交流が生まれやい空間構成について

10 開放的なロビーと下屋によって内外の交流を育む

吹抜けのあるロビーより芝生広場・下屋(右)と大会議室(左)を見る

開放的なみんなのロビーにはイッキャクを自由に配置し、催し毎に施設の顔をつくります。ここに来れば村の営みに触れられる場づくりを行います。

11 空間が連続し、多様な活動が繋がる場をつくる

階段踊り場より図書室(右)と和室(奥)、カウンターのあるラウンジ(手前)を見る

通路を最小限とし、空間を隣接させます。建具を開閉することで、一体利用もでき、様々な活動の気配が感じられ繋がっていく空間をつくります。

施設計画(平面計画)

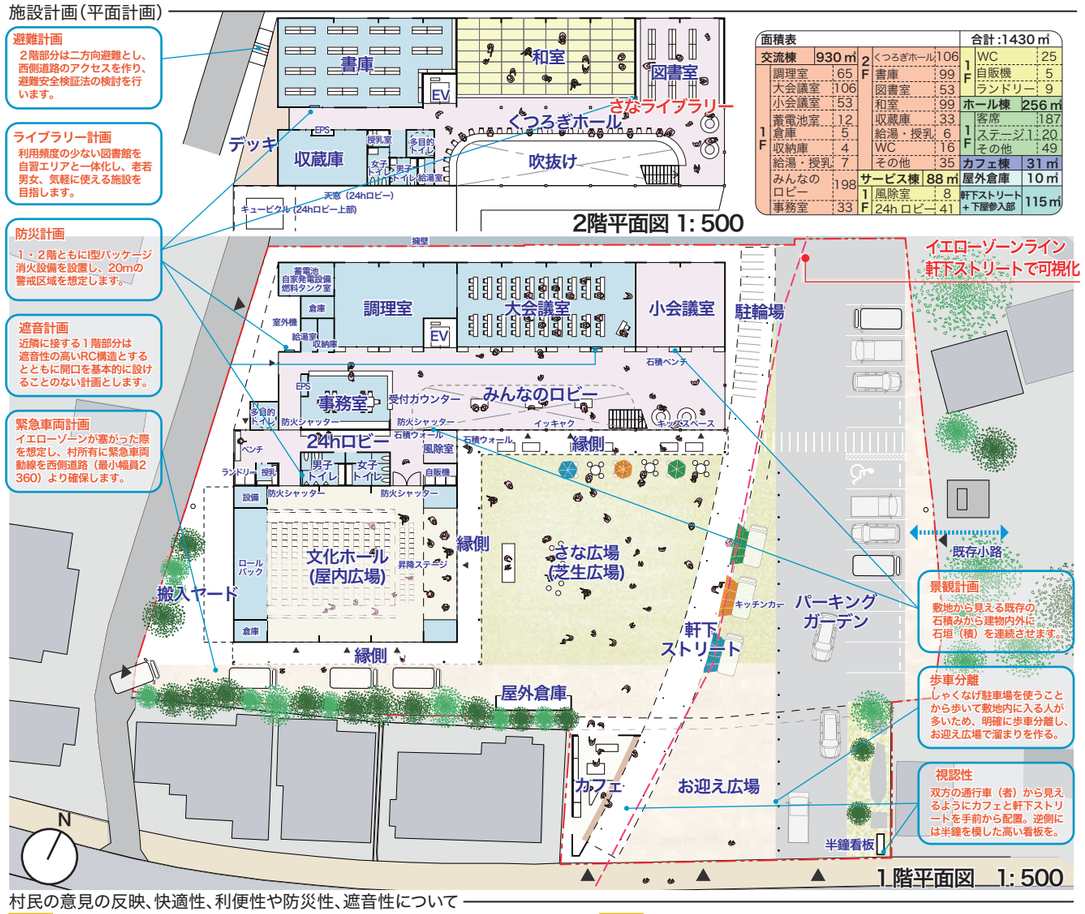
避難計画
2階部分は二方向避難とし、西側道路のアクセスを作り、避難安全検証法の検討を行います。

ライブラリー計画
利用頻度の少ない図書館を自習エリアと一体化し、老若男女、気軽に使える施設を目指します。

防災計画
1、2階ともに1型パッケージ消火設備を設置し、20mの警戒区域を想定します。

遮音計画
近隣に接する1階部分は遮音性の高いRC構造とするとともに開口を基本的に設けることのない計画とします。

緊急車両計画
イエローゾーンが塞がった際を想定し、村所有に緊急車両動線を西側道路（最小幅員2360）より確保します。



面積表					
交流棟	930㎡			合計：1430㎡	
調理室	65	2F	くつろぎホール	106	1F WC 25
大会議室	106		書庫	99	自販機 5
小会議室	53		図書室	53	ランドリー 9
兼電池室	12		和室	99	ホール棟 256㎡
倉庫	5		収蔵庫	33	客席 187
収納庫	4		給湯・授乳	6	1F ステージ 120
給湯・授乳	7		WC	16	その他 49
みんなのロビー	198		その他	35	カフェ棟 31㎡
事務室	33	サービス棟		88㎡	屋外倉庫 10㎡
		1F	風除室	8	軒下ストリート+下屋参入部 115㎡
			24h ロビー	41	

村民の意見の反映、快適性、利便性や防災性、遮音性について

12 意見を汲んだ快適・利便・防災・遮音性

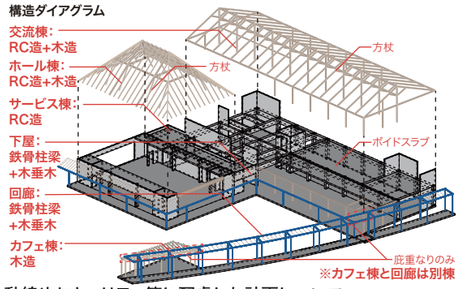
- 地域の潜在的使い手を掘り起こすため、現地事務所と窓口を開設し、広くWSと意見徴収を行います。
- 上記平面図に示すように、移動する味噌加工施設以外の農振センターの機能はすべて踏襲する中で、利用頻度の少ないものはより使いやすく、日々使われているものは充実するよう、すべての施設が視認性が高くなるよう計画し、任意で開閉が出来る仕組みを作ります。
- また、みんなのロビー・文化ホールをはじめとした地域利用空間はWSおよび常会を通じて村民同士で対話し、細かなニーズを隅々まで反映します。住宅と接する西側はRC壁とし、騒音対策に努めるとともに、災害時の備蓄や火災時における消火栓パッケージなど適切に配置します。

構造計画

14 適材適所の構造計画・防耐火

1階はRC造とし土砂災害に備え、2階や屋根は流通材6m以下の経済合理性の高い木架構とします。サービス棟を耐火構造で区画し防耐火上別棟とすることで、その他エリアの木現しを実現し、安全性と経済性を両立。

構造ダイアグラム



防耐火上別棟

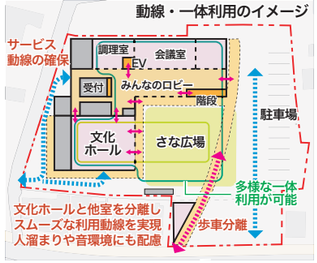
内装制限

動線やセキュリティ等に配慮した計画について

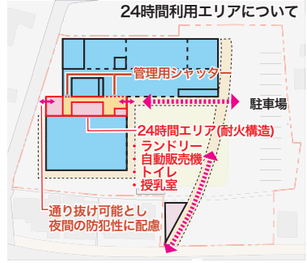
15 使いやすく管理運営しやすいプランニング

開放的なロビーから階段やエレベーターが見え分かりやすい動線計画とします。空間を分けたり繋げたりできるフレキシブルなプランで、事務室からの死角が少なく人の出入りが管理しやすい施設を実現します。

動線・一体利用のイメージ



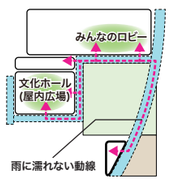
24時間利用エリアについて

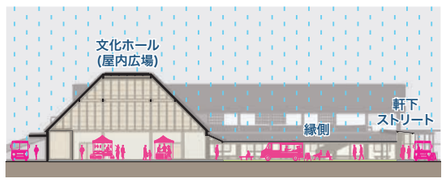


雨天時でも催し物が開催可能な施設や装備・機材配置について

16 いつでもイベント開催を可能にする計画

- 軒下ストリートと縁側により雨天時も濡れずに敷地内を移動可能です。それぞれに屋外コンセントを備え、キッチンカーを横付けできたりイッキャクを出したり、人の居場所にもなります。またタープ等によって拡張することも可能です。
- 文化ホールやみんなのロビーは縁側とさな広場に対して開放でき、屋内広場として雨天時でもイベント開催が可能です。



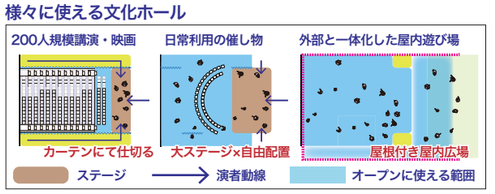


メンテナンス性、中長期的視点に基づく施設計画

13 フレキシブルに使える文化ホール

文化ホールはステージ裏にガラス建具を採用し、その開閉により広場と一体化した活用を目指します。２箇所の可動式ステージとロールバック形式の座席（164）＋パイプ椅子は、イベント規模、村民の活動に合わせ、様々な利用形態に対応します。

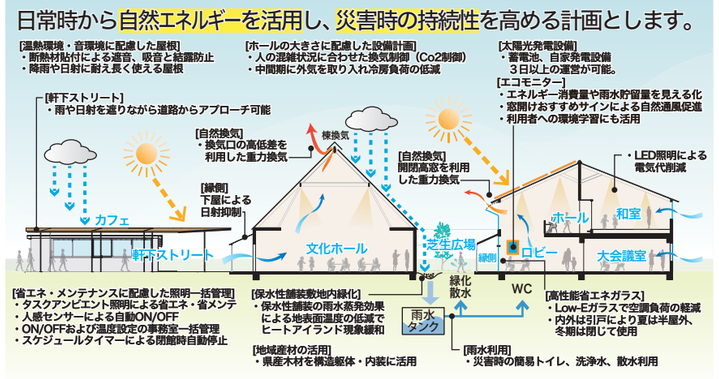
様々に使える文化ホール



省エネルギー、廃棄物の発生抑制、循環型社会の実現について

17 地域の自然資源を最大限活用した循環型建築

日常時から自然エネルギーを活用し、災害時の持続性を高める計画とします。



災害発生時の避難所利用の計画

18 円滑に避難でき安全に過ごせる避難所

イエローゾーンを避けた広場と車両動線を確保し、誰もが容易に避難し安全に過ごすことができるゾーニング計画です。

災害にあう前に常日頃から防災意識を育む施設づくりを共に考え共につくります

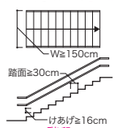
1 地域について知ること（学習）
2 知を共有すること（話し合い）
3 地域を元気にすること（活動）

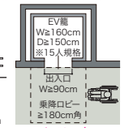
ユニバーサルデザインへの配慮

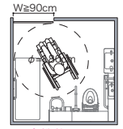
19 みんなが使える優しい施設

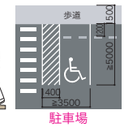
- 徳島県UD推進条例に適合する計画とします。
- 死角が少なく見渡せ、回遊できるみまもり設計により誰もが安心安全に使える計画とします。

■UD推進条例の【整備基準】以上の【望ましい基準】に適合

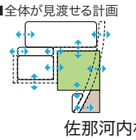


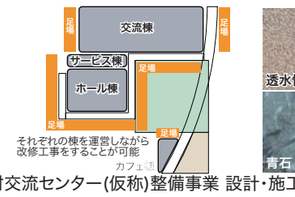
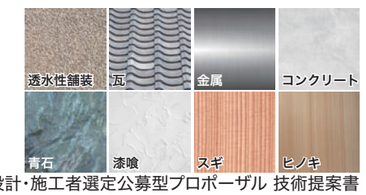






■全体が見渡せる計画



20 長寿命化と更新性の双方に寄与する計画

- 建物周囲に極力余裕をもたせた分棟形式にすることで、将来的な大規模改修等にも柔軟に対応できる配置計画です。
- 主体構造をRC造とすることで建物の長寿命化を図ります。
- 明快な配管・ダクト計画や、特注品を避けた標準機器の使用により、将来的に更新しやすい設備計画とします。
- 可能な限り地産材を使い、雨掛りのある部分には高耐候性素材を、内装や軒下には温かみのある木材等を用います。